

# アフターコロナは『百聞は一見に如かず』で

皆さん、こんにちは。

今回の年末年始は私的にブラジルへ出かけました。

ブラジルにおける内燃機関関係のお話を少しだけいたします。

皆さんもご存知の通り、ブラジルは日本から見て地球の裏側にあり、非常に遠い国。



世界遺産：計画都市ブラジリア夜景  
(高速道路・一般道、信号がない道路)

ちなみに飛行時間だけでも 24 時間乗ることになり、さらに国内線を乗り継ぐとそれ以上です。

国土は日本の 20 倍以上あり、人口は 2 億人を超え、ここ数十年は増加を続けるのだと思います。中国のような急速な経済発展とは違いますが、現在も緩やかに拡大しています。

私が見たのはブラジリアだけでしたが、まだまだ大きくなる国、そう感じました。広い国土を移動するには飛行機の移動が適しています。一般には時間を掛けたの長距離バスやクルマでの移動になるのでしょうか。

最初に行った 30 年前は FORD、FIAT、VW が多かった記憶があります。今では日本・欧州ほぼすべてのメーカーを見るようになりました。

そして、以前と比べると現代自動車の小型車が多く(恐らく安い)、その拡大には脅威を感じました。

車型は昔から小型車・ピックアップトラックが多く、今はやはり SUV が増加しており、全世界共通なトレンドなのかと思います。

EV導入・カーボンニュートラルが求められる現在、充電が要らないハイブリッド車なら、かなり見かけました。純粋なバッテリー車を見ることはありませんでしたが、充電スタン



軽油  
エタノール  
レギュラーガソリン  
ハイオクガソリン

ドは見かけたので、街中の限られた使い方になっていると思います。もう一つこの国は、サトウキビから作られるエタノールを使用するフレックス車があることは特筆すべきところだと思います。

現段階でこの国には内燃機関が無くなる危機感は少しも感じませんでした。国土が広く、その割に人口が少ないこの国の社会ではクルマはEV化ではなく、昔からあるバイオ燃料に優位性があるのではないのでしょうか？

今回このようなことを考えさせられたのは、新型コロナウイルスよるパンデミックの期間、行動制限を強いられ、直接、外国を知ることが出来なくなったところからです。

情報はインターネットで得られますが、そこにはフェイクなものも溢れています。一方通行で伝わってくる情報では何が嘘で真実なのか？国の主導権争い、政治家のパフォーマンス、悪意を持って伝わる情報は現実とはかけ離れたものもあります。情報が入手しやすい反面その信憑性は自己の判断が必要です。

限られた時間、限られた場所であり、すべてを知ることが出来ませんが、それでも文字通り、現地・現物・現実を知ることが出来れば、多少なりとも自分なりの納得する答えが出て来ると思いました。

日本も遅ればせながらコロナの行動制限はなくなりました。感染症法の2類相当から5類へ移行すれば終息なきアフターコロナが始まります。

『百聞は一見に如かず』。やっと、自分で見て感じて判断出来る時代が戻って来ます。

ネガティブ思考は終え、ポジティブ思考への転換点と考え、仕事でも遊びでも行動範囲を広げて楽しみたいと思います。

当社はカーボンニュートラルという大きな課題と共に、事実を知ることでも今後も内燃機関部品メーカーとしてグローバルな要望に対応、携わっていきます。

最後にもう一つ。余談ですが、日本でもおなじみのブラジルの肉料理「churrasco」。

現地ではシュラスコとは言いません。私にはシヨハスクと言っているよう聞こえました。